



暗号資産の月次決算チェックリスト

デジタル資産を保有する事業体の決算手順を、実行順に示します。各ステップは前のステップに依存します。資産の範囲が確定する前に評価を行えば、その後変更される数値が出てしまい、振替の突合前に仕訳を転記すれば、実際には発生していない利益が計上されることになります。

CryptaCount

www.cryptacount.com

General information, not accounting, legal or tax advice

暗号資産の月次決算チェックリスト

デジタル資産を保有する事業体の決算手順を、実行順に示します。各ステップは前のステップに依存します。資産の範囲が確定する前に評価を行えば、その後変更される数値が出てしまい、振替の突合前に仕訳を転記すれば、実際には発生していない利益が計上されることになります。

開始前に

期間の最初の決算を行う前に、2つのことを確認しておく必要があります。第一に、事業体の**文書化された会計方針**です。測定基準、資産評価に使用する価格ソースと時刻の取り決め、および処分に適用する原価計算方法を含みます。第二に、**口座のインベントリ**です。事業体が管理するすべてのウォレットアドレス、取引所アカウント、カストディ契約の管理リストです。決算はそのリストが完全である場合にのみ完了し、誰も知らないウォレットが残高不一致の最も一般的な原因です。

決算手順

1. **すべてのウォレットと取引所を接続し、同期する。**全体の口座インベントリにわたって同期を実行し、各ソースが期間の締め日までのデータを報告していることを確認します。失敗した取引所や部分的なデータしか返さなかった取引所があれば、古い接続を黙って通すのではなく、メモしておきます。
2. **取引の欠落がないことを確認する。**各取引所・各資産の期末数量を、オンチェーンまたは取引所で独立に観察できる残高と比較します。差異がある場合、取引が欠落、重複、または日付誤りであることを意味します。下流の計算の前に差異を調査します。
3. **自己ウォレット間の振替の未突合を解消する。**管理下のある取引所からのすべての送金を、別の管理下取引所への対応する入金と照合します。これらは**処分ではありません**。資産はその原価基準を維持し、新しい場所に引き継がれ、損益は発生しません。移動のために支払われたネットワーク手数料は、別途会計処理されます。未突合の足が残ると、一方に架空の処分が生じ、もう一方にゼロ基準の取得が生じます。
4. **残りの取引を分類する。**内部振替でないものはすべて、取得、処分、手数料、収益イベント、または再評価として識別する必要があります。評価に入る前に、未分類のものを残さないでください。
5. **文書化された会計方針に従って、保有資産を価格付けし評価する。**事業体の定めた価格ソースと時刻の取り決めを、すべての資産と取引所に一貫して適用します。各価格の出所と約定時刻を記録し、評価額が主張ではなく証拠に基づくものにします。

6. **処分に原価計算方法を適用する。**事業体が選択した[原価計算方法](#)を、期間内のすべての処分に一貫して、決定論的に適用します。方法が文書化された方針と一致していること、手数料が正しい側に組み込まれていること（取得手数料は通常原価を増加させ、処分手数料は通常収入を減少させます）を確認します。
7. **仕訳を転記する。**取得、実現損益を伴う処分、手数料、収益イベント、再評価について、事業体の勘定科目表に対応する期間の転記を作成します。[暗号資産仕訳生成ツール](#)と[仕訳ガイド](#)に、標準的な転記パターンが記載されています。
8. **補助元帳と総勘定元帳を照合する。**各集約された総勘定元帳の転記が、その下にある取引レベルの詳細に分解できること、および帳簿上の資産残高が締め日時点の観察可能な保有高と一致することを確認します。すべての調整項目を解消するか、残る理由を文書化します。
9. **損益と収益をレビューする。**承認前に期間の変動を分析的に確認します。実現利益の数値が処分ボリュームに対して妥当かどうか、未突合の振替を示唆する異常に大きな単一明細の利益がないか、収益が受領価額で認識され、原価として繰り越されているか。
10. **判断を要した事項を文書化する。**この期間に行われたすべての判断（手動の組替、代替ソースからの価格使用、減損または再評価の結論、範囲の決定）を書き留めます。文書化されていない判断は、監査で最も時間がかかる項目です。

照合管理策

上記の手順により数値が作成されます。以下の管理策は、それらが正しいと主張するために必要なものです。各管理策を每期実行し、意図ではなく結果を記録してください。

管理策	比較対象	保持すべき証拠	失敗のシグナル
取引所の網羅性	接続・同期済みソースのセットと、取引所インベントリを比較。	日付入りのインベントリリスト、各取引所の同期状態付き。	インベントリにある取引所で、締め日までのデータがないもの。
数量照合	補助元帳の各取引所・各資産の期末数量と、オンチェーンまたは取引所の観察可能な残高を比較。	取引所別の数量比較、差異の説明付き。	説明のつかない数量差異（どんなに小さくても）。
振替突合	管理下取引所からの送金と、管理下取引所への入金を比較。	突合ペアのリスト、および理由付きで未突合のレグのリスト。	未突合のレグ、または処分として扱われた振替。
評価の一貫性	適用された価格と、文書化された価格ソースおよび時刻の取り決めに比較。	資産ごとの価格ソース、タイムスタンプ、価値。	文書化なしに代替ソースから価格が付けられた資産。
原価基準の整合性	期首原価 + 取得 - 処分による原価減少と、期末原価を比較。	資産ごとの原価の繰越計算表。	金額が合わない繰越計算、または負の数量。

補助元帳と 総勘定元帳 の一致	集約された総勘定元帳の転記と、その背後にある取引レベルの詳細を比較。	勘定科目ごとの一致スケジュール、調整項目のリスト付き。	元の取引に分解できない総勘定元帳残高。
損益レビュー	期間の実現損益と、処分ボリュームおよび期待値を比較。	異常値の説明付き分析レビューノート。	ゼロ基準のロットに起因する異常に大きな利益。
判断ログ	手動調整および判断事項と、文書化された根拠を比較。	判断ごとの日付入りログエントリ、作成者とレビュー担当者付き。	裏付けノートのない手動調整。

決算がうまくいかないケース

- **自己ウォレット間の振替を売却として記帳する。**最も有害で最も一般的なエラーです。実際には存在しない利益を生み出し、原価基準の連続性を破壊します。
- **ウォレットの追加が遅れる。**期中に取引所を追加して、以前の母集団を組み替えない場合、追加の時点から遡って原価と数量が誤ったままになります。
- **手数料の喪失または誤転記。**取得手数料は原価に含め、処分手数料は収入から控除し、ネットワーク手数料がネイティブトークンで支払われた場合は、それ自体がそのトークンの小さな処分となります。
- **資産ごとに価格をその場しのぎで決める。**1つの会計方針を文書化し、すべてに適用します。アドホックな価格選択はレビュー時に説明できません。
- **予備費で調整する。**説明のつかない調整で差異をゼロに強制することは、問題を先送りするだけで、解決にはなりません。

CryptaCountでの実行方法

暗号資産補助元帳は、ウォレットと取引所アカウントからの取引を一緒に取り込み、事業体の自己取引所間の移動を処分ではなく内部振替として認識し、文書化された原価計算方法をすべての処分に決定論的に適用し、各明細の下にすべての元取引を保持しながら、期間の集約仕訳を総勘定元帳に転記します。データが修正されたり、取引所が遅れて追加されたりすると、エンジンが再実行され、影響を受けるエントリが決定論的に更新されるため、帳簿は手動パッチの蓄積ではなく、単一の答えに収束します。

一般的な情報であり、法的、会計上、または税務上のアドバイスではありません。ご自身の事業体の文書化された方針を適用し、資格のあるアドバイザーに確認してください。

Disclaimer. 一般的な情報であり、法的、会計上、または税務上のアドバイスではありません。ご自身の事業体の文書化された会計方針を適用し、資格のあるアドバイザーに確認してください。



Put your crypto books on a real sub-ledger at app.cryptacount.com

© 2026 CryptaCount. All rights reserved.